

## 「桃山学院大学学生論集」第25号の発刊にあたって

学長 松 浦 道 夫

入選者の皆さんおめでとうございます。

本学「学生論集」の発行は、本学経済学会の学会誌である「経済学論集」の別巻として1965年度に発行されたものを以てその嚆矢とします。しかしながら、大学紛争の影響で1975年度から1982年度まで懸賞論文の募集が途絶えていました。この間の事情について現在の学生にはよく理解できないかも知れませんが、ここでは詳しく述べるだけの紙幅は与えられていませんので割愛します。しかし、その後、学生の研究活動を活性化させたいとする教員諸先輩の熱い想いの下に再刊の話が持ち上がります。そして、1983年度の経営学部創設10周年記念学生懸賞論文集、1984年度の大学開学25周年記念学生懸賞論文集を経て、復刊第1号が刊行されたのは1985年度のことです。

この復刊第1号への応募は、かなり水準の高い論文21編が寄せられたという当時の記録が残っています。そしてそれが連綿として今に引き継がれ、この度の第25号の応募件数92編に繋がっているのです。

今年度は昨年初めて授与することになった学長特別賞こそありませんでしたが、3編の優秀作は限りなく学長特別賞に近いとの審査結果で、全体のレベルも上がっていると聞いております。私事であり誠に恐縮ですが、今年度末を以て学長職を辞すとともに桃山学院大学を退職することになる私にとって大変うれしい報告でした。今後の可能性にも期待でき、大いに頼もしくもあり、楽しみに思うとともに、大学構成員全員の皆さんにこうした大学文化の継承を大切にしていきたいと切に願うものであります。

さて、上述のとおり、今年度も多くの論文が寄せられましたが、やはり論文作成のベースはゼミにあります。学生自身の努力に敬意の念を抱く一方で、ゼミ担当の先生の熱心な、温かいご指導が皆さんの大きな支えになっただろ

うとも思います。卒業年次生は進路問題を抱えながら、よく頑張られました。3年次生以下には再挑戦のチャンスがあります。入選されなかった皆さんも、ともに大きな成果があったと確信します。

本学では、学生の様々な活動を奨励、支援しています。スポーツ活動、国際交流、ボランティア活動、課外活動など、どれも大切なものです。しかし大学本来の教育は、ゼミの学習や論文作成が基本です。ですから、皆さんの努力と姿勢は全学に良い影響を及ぼすことは間違いありません。今回の表彰式においても、入選者一人ひとりの笑顔がとてもさわやかでした。私の仕事のエネルギー源は、皆さんの笑顔と生き生きした姿です。表彰式の時間はほんのひとときでしたが大変有意義でした。皆さんに感謝します。

おわりに、第25号の刊行は、審査委員の先生方のご苦勞と担当職員の方々のご支援の賜物です。学生とともに心よりお礼申し上げます。